

平成25年度

浄化槽設置補助事業のお知らせ

平成25年4月から平成26年3月までの間に浄化槽の設置を計画している方は、「浄化槽設置補助事業」の対象となります。

○事業の対象となる地域

袖浜漁業集落排水処理区域及び特定環境保全公共下水道認可区域（伊里前処理区）を除く全町です。

○補助対象基数 50基

※これを上回る申請については、補助金が交付されない場合があります。

○補助対象人数 5人槽から50人槽まで

○申し込み方法

上下水道事業所備え付けの申込書に必要事項を記入し、3月29日(金)まで上下水道事業所へ提出してください。※申し込み期限を過ぎても予定基数に達しない場合は、随時受け付けます。

○補助対象要件

平成25年4月1日以降着工で、平成26年3月31日までに工事が完了出来ること。

なお、し尿のみを処理する単独浄化槽は補助対象外です（単独浄化槽自体も、現在は製造・販売されていませんので、単独浄化槽を設置されている方は合併浄化槽への切り替えをお奨めいたします。）。

また、東日本大震災により被災し、新たに高台移転等低炭素社会対応型浄化槽（消費電力が従来より少ない省エネ型浄化槽）を設置される方については別途補助金が適用されます。詳しくは1月発行の住宅高台移転まちづくりニュース<第11号>をご覧ください。上下水道事業所までお問い合わせください。

問い合わせ 上下水道事業所 ☎46-5600

生ごみをエネルギーと資源に変える取り組み

南三陸町を舞台に、日常のごみ等を資源に変え、循環型のまちづくりを目指す取り組みが実施されています。

具体的には、これまで「燃やせるごみ」としていたものを「生ごみ」「容器プラ」「その他」の3つに分別し、それぞれの資源化を検討・実証するもので、特に「生ごみ」については、クリーンセンターに設置したバイオガス試験プラントで微生物発酵させ、バイオガスと液肥にしています。このような実証を通じて、町のごみ等の資源化プランも策定します。

南三陸町震災復興計画に掲げる「創造的復興」に向け、町として本事業に協力していきますので、町民皆様のご協力・ご関心のほどをよろしくお願い致します。

・生ごみ資源化を学ぶ会

バイオガス試験プラントを見学してもらいながら、生ごみ等をエネルギーや資源に変える仕組みを学ぶ会を開催いたします。是非ご参加ください。

◇日程 2月3日(日)、5日(火)、13日(水)、23日(土)

◇場所 クリーンセンター（戸倉字脇の沢41番地1）

※詳細は問い合わせください。

問い合わせ 環境対策課 ☎46-5528
見学会関係 ☎47-4055

町内における空間放射線量測定情報

■空間放射線量

(単位：マイクロシーベルト/時、地表からの高さ50センチメートルにて測定、測定日：1月4日から10日)

測定地点	測定値	測定地点	測定値
役場庁舎	0.04	志津川小学校	0.07
神割崎	0.07	入谷小学校	0.08
波伝谷漁港	0.04	伊里前小学校	0.05
水尻川中流部	0.07	志津川中学校	0.08
入谷さんさん館	0.10	歌津中学校	0.07
伊里前川中流部	0.09	志津川保育所	0.09
吉野沢団地	0.06	伊里前保育所	0.06
泊浜	0.05	名足保育所	0.06
名足仮設団地	0.06	平成の森(地表1m)	0.05
水塚峠	0.10	田束山頂	0.09

現在、環境省が定めた除染のガイドラインとして、1時間当たり0.23マイクロシーベルト以上(年間1ミリシーベルト以上)の放射線量が計測された場合は除染作業を行うことと定められておりますが、上記の表のとおり町内に該当する場所はありません。

■水道水中の放射性物質測定結果について

前回と変更ありません。(当町の水道水は食品衛生法の基準を満たしています。)

問い合わせ 環境対策課 ☎46-5528

■町内産農林水産物中の放射性セシウム測定結果

(単位：ベクレル/kg)

◇結果：基準を満たしています。(基準値=100ベクレル/kg)

品目	採取日	測定値(検出下限値)
ハウス ほうれん草、菌床 しいたけ	12月19日(水) ～12月25日(火)	不検出 (9.7未満)
シロサケ、クロソイ、生ワ カメ	12月5日(水) ～12月27日(木)	不検出 (12.889未満)

■町内産農林水産物の出荷制限 (1月10日現在)

県等による放射線検査を実施した結果、**露地栽培の原木しいたけ、こしあぶら、イノシシ肉、クマ肉、クロダイ、スズキ**について引き続き出荷制限が行われております。

(※市場には流通していません。)

なお、**1キログラム以上のマダラ**については1月17日(木)付けで宮城県沖の全海域で**出荷制限が解除**されましたのでお知らせします。

問い合わせ 産業振興課 ☎46-1378

参加者募集 「海と山の地域ブランドづくり研修会」

◇対象 漁業・水産加工業・林業・製材業関係者等

◇内容 町独自の商品開発を進めるための研修会等

◇日時 2月3日(日)及び17日(日) 午後1時から

◇場所 役場庁舎2階大会議室

※詳しくは、広報1月号をご覧ください。

問い合わせ 産業振興課水産振興係 ☎46-1378

庄内の風 ⑫

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

東北の奇祭や祭り

1月13日(日)、庄内町千河原集落で、約300年以上前から伝わるとされる伝統行事、「やや祭り」が行われました。やや祭りは、千河原八幡神社の年越祭りの異称で、厳寒のなか素裸にワラで作った腰みの姿の少年たちが冷水で身を清め、安産と無病息災・身体堅固を祈願する祭事から、東北の奇祭として全国的に知られています。



この日は、寒空の下雪が残る境内で、5歳児から中学3年までの9人が参加。桶に汲まれた冷たい水を、肩からザザーと注ぐと、周囲から一斉に悲鳴が上がりました。身を切るような冷たさに、歯を食いしばって耐える雄々しい姿に、「頑張れ」といった声援や拍手が盛んに送られていました。見物客のなかには、来月出産を控えた妊婦が夫婦で安産祈願に訪れており、「祭りにあやかって、元気な子どもを産みたい」と話していました。

復興応援大使 リレー通信 ⑧

各地で南三陸町の地域ブランドのPRや復興まちづくりの状況をお知らせいただいている南三陸町復興応援大使の皆さんの声をお届けする「復興応援大使リレー通信」を連載しています。今回は、プロデューサー・演出家で、震災前から町の女性たちと町の人たちの物語を可視化する「きりこ」を素材としたアート・プロジェクトを行ってられる吉川由美さんです。



復興応援大使
吉川由美さん
(仙台市)

はるかな友に心寄せる若者たちを讃えたい

その詩はこんなフレーズで始まります。「町は消えた そこには何もなかった」志津川高校の2年4組のみなさんがクラス全員で言葉を出し合い、一編の長い詩を作ったのです。大震災後の春、その時の自分を生徒たちは、「飛べない鳥」「折れた花」「消しゴムに消された文字」などに例えました。しかし、詩はこのように展開します。「無の向こうには美しい海があった。／何もない町にたくさんの人がいて 温かいぬくもりがある」東日本大震災の約1年前、2010年2月27日に地球の裏側のチリを大地震が襲いました。志津川高校のみなさんは、15メートルもの大津波に襲われたコンスティトゥション市のガブリエラ・ミストラル校の3年B組の生徒たちに心を寄せて、この詩に彼らへのメッセージを込めました。「もう一度 海と共に生きていく／昔のような美しい風景を取り戻そう／みんなでまたこの町に暮らそう／前よりもっと 幸せなこの町をつくるんだ／もっともっと いっぱい笑える場所にしていこう」

若者たちの心の底から紡ぎ出された言葉に、私は胸が熱くなりました。彼らの詩を読んだチリの生徒たちからも、彼らの全く同じような体験の物語が届きました。多感な時期に未曾有の災禍を体験した子どもたちや若者たちは、この約2年間、おとなたちの心を思いやり心配をかけまいと懸命にがんばって来たことと思います。はるかな国に生きている友に心を寄せ、互いの体験を共有することは、彼らの心の傷を癒し、前進する力を生み出すと信じています。「やっぱり海がきれいだった／ずっと忘れない／一緒に歩いたこと 一緒に笑ったこと／一歩ずつ一歩ずつ 未来を信じて歩いてこう」このように詩はしめくくられます。この詩を生徒たちとともに歌にしました。3月11日の追悼式典で、町のみなさんにご紹介します。この歌を通して、町のみなさまが力を合わせて苦難を乗り越えようと懸命にがんばってられる姿を、遠くから見守ってられる方々に伝えることができれば。そう願っています。